

「私たちの体育」を活用しての実践事例

～3年「ハンドベースボール」の実践を通して～

岩美町立岩美北小学校 田井 宏幸

- 1 単元名 「ハンドベースボール」(ゲーム【ベースボール型ゲーム】)
- 2 単元について

(1) 運動の特性

ハンドベースボールは、バットやラケットといった用具でボールをとらえるのとは違い、自分の手で直接打つことができるため、比較的打撃の感覚がつかみやすく、力いっぱいボールを打つ快感を得ることが可能である。また、アウトかセーフかといったきわどい判定のスリルを味わうこともできる。そして、攻守が交代制となっているため、攻め方や守り方の作戦が立てやすく、実行もしやすいと考えられる。従来、ベースボール型ゲームという、バットを振って、空中に投げられたボールを打つというイメージが強く、なによりも運動技能の難しさを指摘されてきた。しかもゲーム中に求められる状況判断の複雑さも加わり、技能が高く、野球のルールに詳しい人だけしかベースボール型ゲームの面白さや魅力を感じることができなかったように思う。しかし、ハンドベースボールでは、それらの課題もカバーでき、一人一人にベースボール型ゲームの楽しさや学習内容を身につけさせるのに有効な教材であると考えられる。

(2) 児童について

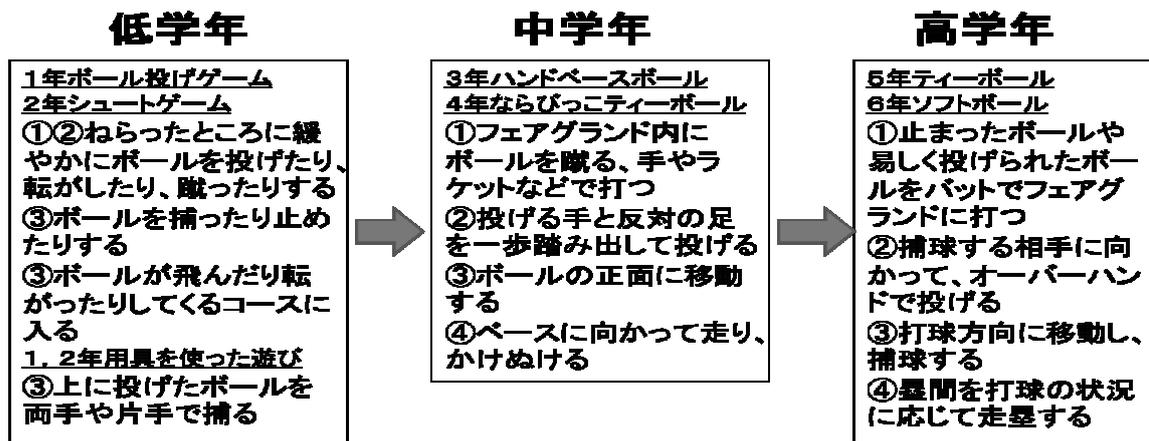
3学年の児童は、学年全体の傾向として、運動することを好み、積極的に身体を動かす児童が多い。また、スポーツクラブに属している児童も数名おり、日常的に運動をしている児童もいる。反面、天気が良くても室内で絵を描いたりオルガンやリコーダーを楽しんだりして過ごす児童もおり、体を動かして遊ぶ児童とそうでない児童の二極化傾向がみられる。

一か月前に実施した「体育授業評価」の結果をみると、ルールを守ってきまりよく体育学習に取り組んではいないものの、「運動がうまくなってきた」「練習したらできるようになった」という成功体験が味わえておらず、運動することを心から楽しめていないということがわかった。さらには、お互いの励まし合いや認め合い、教え合いが十分でなく、自尊感情を高めたり自分のよさに気づいたりすることができなくて自信が持てていないという実態がうかがえた。

(3) 指導について

①技能の系統について

本郡では、技能の系統を意識して指導するように心がけ、この単元においては次の通りである。



②技能の習得について

技能を無理なくつけさせるためにも、ボールは大・中・小を準備し、チーム毎に選択させる。いろいろなボールを試してみる中で、特に攻撃面において、自分のねらったところへボールが打ちやすくなることを最優先させられればと考える。そして、ボールを自分の手に載せて反対の手で打つ打撃方法を取り入れる。守備側としては、ボールを補給した児童の後ろに全員が一行で並ぶ『ならびっこ』を採用する。運動量の確保や複雑な状況判断を取り除くためである。このように、みんなが安心して「面白そう」「できそう」「やってみよう」と思えるような易しいゲームや規則へと工夫していきたい。なお、本単元の後半のゲームの中では直接扱わない「投げる」動きに関しては、4年生につながるよう前半のゲームの中で扱うこととした。

③ゲームを楽しむための態度面の育成について

ゲームの中で、うまくいかない友だちに励ましの言葉をかけるのはもちろん、活躍できた友だ